

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
12	高橋 正典（21）	<p>1. 観光資源として富士川かりがね橋の活用について</p> <p>本年3月9日、富士川の市域内に架かる第3の橋、富士川かりがね橋が供用開始となる。</p> <p>本市にとっても交通体系が大きく変化する新橋となることは確かである。また、富士川左岸の岩松北地区及び岩松地区にとってもその利便性を期待するところであり、県道富士由比線沿線の岩松地区住民にとっては、慢性的な交通渋滞の解消につながると大いに期待しているところである。</p> <p>別の視点で考えると、観光資源の一つに加え、大いに活用すべきである。富士川楽座の年末年始の来館者数が13万7000人強であり、コロナ禍前より増加しているという報道がある。富士山を正面にして記念撮影をする観光客がおり、観覧車に乗って再び富士川の流れとともに富士山を撮影するのである。</p> <p>これだけ日本人、またインバウンド観光で来訪した外国人の心をつかんで離さない富士山を仰ぐことができる新橋を富士市の観光に結びつけるべきと考え、以下質問する。</p> <p>(1) 富士川かりがね橋を利用して来訪する観光客向けに、実相寺や岩本山公園をクローズアップした観光案内を作成すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(2) 実相寺との連携の中で、観光客の受入れ体制の構築が必要と考えるが、官民連携の観点から協力体制を取る考えはあるか。</p> <p>(3) 本市では、観光客を呼び込むアイテムとして、岩本山公園をふれあい交流拠点に位置づけており、様々なイベントを実施しているが、公園の整備はどのような状況か。</p> <p>(4) 富士川楽座から岩本山に向けて、循環バスを設定したらよいと考えるがいかがか。</p> <p>2. 災害時における学校施設の安全対策について</p> <p>本年元日に発生した能登半島地震については、想像を絶するものであり、報道の映像を一部見ただけでも東日本大震災を思い起こさせるものであった。震度7、マグニチュードは7.6といわれ、大きな揺れから津波被害、山間地は土砂崩落、液状化現象から地面の隆起や建物崩壊が多くの人命を奪ったのである。かろうじて逃げ延びた方々は、今も避難生活を余儀なくされ、指定避難所になっている学校施設に身を置いている方がいる現実がある。</p> <p>2011年3月11日の東日本大震災において、最大震度7、マグニチュードは9.0を記録した。この大震災を受けて本市においても公共インフラの土木・建築とも再点検を実施した。</p> <p>あれから13年が経過し、当時の公共インフラのほとんどが現在も使用されているが、インフラのメンテナンスの強化とともに事故の発生を前提に安全策を講じていくフェイルセーフの視点から、必要ならば補修工事も進めていかなければならないと考える。</p>	市長 教育長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
12	高橋 正典（21）	<p>南海トラフ巨大地震の発生前ゆえに、今、対応策を講じておかなければと考え、今回は災害発生時には学校施設も避難所を選定されることから、学校施設に絞り、以下質問する。</p> <p>(1) 耐震診断から耐震補強まで完了していることを前提に伺うが、外壁タイルなど校舎の非構造部材への対策はどのようなになっているか。</p> <p>(2) 体育館の天井材や照明器具などへの対策はどのようなになっているか。</p> <p>(3) 体育館が避難所になった場合、この時期であれば寒さ対策が、夏であれば熱中症対策が求められるので、空調設備導入の考えはあるか。</p> <p>(4) 避難所になる可能性が大きい学校施設においてもトイレが使用できる環境整備が重要であり、災害用に合併処理浄化槽を設置すべきと考えるがいかがか。</p>	市長 教育長 及び 担当部長